

# 旗印

コナーズビル インディアナ州 アメリカ合衆国  
1953年06月06日

- 1 今夜もこうして皆さんと集まれることを心から感謝しています。  
お天気も良くなるように祈りました。確かに、雨も必要ですが——私はこう思います。  
**「魂の救い」は、どんな雨よりももっと切実に必要なのです。**  
皆さんもそう思いませんか?(会衆:アーメン)  
さあ、今、少しの間だけ頭を垂れて、いのちの与え主にお祈りしましょう。  
天の父よ、  
このすばらしい特権——こうして一つ心であなたを礼拝できる恵みを感謝します。  
天地が造られる前から、あなたはこのように私たちを礼拝に招いてくださっていました。  
主よ、あなたは言われました。  
「神は霊であり、霊とまことをもって礼拝する者を求めておられる」と。  
私たちは今夜、その霊と真理の中であなたを礼拝したいのです。  
どうか今夜、真理がはっきりと現され、聖霊がその真理の中に満ちてくださいますように。  
罪人たちを救い、  
新しく生まれ変わるべき魂に、天からの「激しい風」がもう一度吹きますように。  
どうか聖霊のバプテスマがこの場に再び訪れますように。  
そして主よ、病んでいる者を癒してください。  
多くの方が助けを必要としています。  
私は今夜、「救い」と「いやし」という福音の完全なわざについて語ろうとしています。  
どうか特別な助けをお与えください。  
愛する御子、イエス・キリストのみ名によってお祈りします。  
アーメン。
- 2 皆さんの中には、『ルック』誌や『ライフ』誌などでご覧になった方もおられるでしょう。  
あのアラビアの地方——イエメンなどで、何千、何万というユダヤ人たちが、  
新しいエルサレムへと帰還しているという記事を。  
彼らはヨルダンを越えて、祖国に帰っているのです。  
古いエルサレムはアラブ人たちの手にありますが、  
“新しいエルサレム”に、神はユダヤの民を連れ帰っておられる。  
今や、「いちじくの木が芽を出している」——皆さん、わかりますか?  
スウェーデンのストックホルムの教会が、なんと100万冊の新約聖書をそこへ送ったのです。  
彼らは、イエスという方がこの地上におられたことすら知りません。  
彼らにとって「イエス」は未知の存在なのです。

ところが、その聖書を読みはじめた彼らがこう言ったのです。

「もしこのイエスという方がメシヤであるなら、

その預言者のしるしを見せてほしい。

それが本当なら、私たちは受け入れよう。」

ああ、なんと胸の高鳴る言葉でしょう！

私はこう思うのです——

もし、オリーブ山のふもとにでも行って、

そのような人々を五十万でも集められたら……

私はこう言いたい。

「さあ、新約聖書を読みなさい。

そこに書かれている“メシヤ”がどのように現れたかを見なさい。

そして、もしこの方イエスが今日、同じことをなさらないなら、

私ウィリアム・ブラナムは偽預言者である。」

しかし、もしその御業が再び現れるなら——

それは、イエスこそ神のメシヤであるという証しです。

どうか、私たちのために祈ってください。

私たちは、その働きのために切実に祈りを必要としています。

### 3 さて今夜……(ここでテープが一度切れています)

ヨセフ——

彼はキリストの完全な象徴、そして今日の教会の予表です。

彼は兄弟たちの中に生まれましたが、

彼らは同じ家族の者でありながら、彼を憎みました。

なぜなら、ヨセフが霊的な人だったからです。

そうです。

今夜も同じことです。

真の信者——真に霊によって生きる者は、

同じ教会の体の一部でありながら、しばしば拒まれ、軽んじられるのです。

アーメン。

よく考えてみてください。

ヨセフはイスラエルの家族に生まれた一人の息子でした。

彼は族長の一人でした。

けれども、その霊的な生き方ゆえに拒まれたのです。

彼は先見者(シーア)として生まれました。

幻を見、夢を解き明かしました。

そのゆえに、兄弟たちは彼を理由もなく憎んだのです。

しかし、皆さん知っていますね、

預言というものは繰り返されるということ。

どの聖書学者もそう認めるでしょう。

マタイ10章に「わたしはエジプトからわが子呼び出した」と書かれています。

これはもともとイスラエルがエジプトから呼び出された時のことを指していますが、

同時に——神が御子イエスをエジプトから呼び戻されたことも意味しているのです。

4 ヨセフがキリストの象徴であるように、

彼は同時に「教会」の予表でもあります。

教会とは、地上にあるキリストの体なのです。

なんと美しい類似でしょう！

時間があれば、そこに隠された“黄金の粒”を掘り出してみたいものです。

さあ、よく見てください。

旧約の出来事はすべて、新約と完全に平行しています。

彼が拒まれ、軽蔑され、

兄弟たちに批判され、

そして最後には迫害を受け、死の淵にまで追いやられた——

それでも、神は彼と共におられました。

彼が野原を歩いてやって来るのを見ると、兄弟たちはこう言いました。

「ほら、あの夢見る者がやって来た。今度は何を言うつもりだ？」

彼らは彼をあざけりました。

しかし、今日もまったく同じです。

信じない“名ばかりのクリスチャン”たちは、

真に信じる者をあざ笑うのです。

けれども、信仰によってキリストの体に属する者を拒むこと——

それは、なんと恐ろしいことでしょう！

5 さて、彼らがエジプトへ下ったときも、神は彼と共におられました。

まったく同じです。

あなたが何と言おうと、神はご自分の教会と共におられるのです。

あなたの教会の中に、ほんとうに霊的で、神をよく知っている人がいるでしょう。

あなたはこう言うかもしれません、

「まあ、あの人たちは少し狂信的だ」と。

私はそれについて明日の午後に話すかもしれません。

よろしいですか。狂信的、と。

彼らがただ神を愛しているという理由だけで、  
この世の人々にとっては奇妙に見えるのです。

けれども覚えておきなさい、

神の目には彼らは祝福された者なのです。

神の民は特別な民です。

王のような祭司たちであり、神に霊的な犠牲をささげる民です。

それは私たちの唇の実——その御名に感謝の賛美をささげることです。

彼らは特別であり、奇妙であり、いつもそうでした。

常にこの世とは非常に異なっていました。

分離された者たち、呼び出された者たちです。

教会という言葉そのものが、

「分離された者」あるいは「呼び出された者」という意味なのです。

イスラエルはエジプトを出るまでは神の民でした。

しかしエジプトを出てから、彼らは神の教会となったのです。

なぜなら彼らは呼び出され、分離され、異なる者とされ、

神がイスラエルを呼び出されたからです。

なんと美しい象徴でしょう——

神が今日ご自身の教会を呼び出しておられる、その象徴です。

私はヨセフが死んだときのことを思います。

彼がどんな記念をそこに残したかを。

私は時々こう考えるのです。

彼が言及したときに、こう言ったではありませんか。

「私をここに葬らないでくれ。しかし私の骨はここに置いておきなさい。

きっと神があなたがたを顧みられる。その時、私の骨を携えて行きなさい」と。

彼はその考えをどこから得たのでしょうか？

神が彼の父アブラハムに約束されたのです。

「彼らは四百年のあいだ異国の地に寄留し、

その地で苦しめられるだろう。しかしその後、わたしは彼らを連れ出す」と。

そしてヨセフは、神が御言葉を守られることを知っていました。

他の族長たちはどこにでも葬られましたが、

ヨセフはそうではありませんでした。

6 言いますが——あなたは聖書の行間を少し読む必要があります。あなたはそう信じますか？見て下さい。

それは教会への愛の手紙なのです。

だから、神学校がそれを教えようとする必要はありません。

それはこの世の知恵ある人の思いによっては知られないのです。

「わたしはこれを知恵ある者や賢い者の目から隠し、

学ぼうとする幼子たちにこれを現わす」と言われています。

それは真理です。

だからこそ、あなたはさまざまな形や種類の宗教や教会を目にするのです。

それでよいのです。

それはそのままにしておきなさい。

神がおられます……神こそ帳簿をつけておられる方なのです。

さあ、見て下さい。

それがどうであったかに注目して下さい。

私とその「行間」にある小さなことを少しお話ししましょう。

あなたもご存じでしょう。私が海外に長く出かけることがあります。

私は妻をととても愛しています。

彼女は私に手紙を書いてくれます。

そしてこう書いてくれます。

「親愛なるピリー、今夜私はここに座っています。あなたのことをとても思っています。私はこうしています……」

彼女がそう書いているのです。

けれども私は、その行間を読んでいるのです。

私は、それがもう少し深い意味を持っていることを知っています。

そして、もしあなたが聖霊を受けていて、キリストを愛しているなら、

あなたも神の行間を読むことができるのです。

そこには何かがあるのです。

7 私たちが主題から少し離れている間、ちょうどこれで、しかし私にあなたに少し何かを落としてみましょう：なぜヨセフは彼の骨をそこに埋めたいと思ったのですか？

通知してください。聖書で最も古い本の1つであるヨブが死んだとき、彼は準備をしていました…または、死ぬ前に、彼は灰の山に座って、沸騰したものをこすり落としていました。そして彼の妻が来て言った、「ヨブ、神を呪って死んでみませんか？」

彼は言った、「女性、あなたは愚かな女性のように話します。」今、彼は彼女が愚かだとは決して言いませんでしたが、彼女はまるでそのように話していました。彼は言いました、「主は与えられ、主は連れ去られました。主の御名はさいわいである。」

彼の教会員の何人かは彼に慰めを与えるために降りてきました—彼が秘密の罪人であると非難し、7

日間彼に背を向けて座っていました。そこにはあまり慰めはありません。しかし、彼らは彼が神に対して罪を犯したと非難しましたが、ヨブは彼の心を知っていました。彼は自分が神に対して罪を犯していないことを知っていました。

多くの場合、人々はこう言います。私は彼らが正しく生きていないことをあなたに言いました。」

さて、神は時々それをしますが、神がそれをするたびにではありません。なぜなら、神はここで聖人、つまり聖人の試みと証明を扱っていたからです。そして、神に来るすべての人は、最初に神について試されなければなりません。そして、彼が懲罰に耐えられないなら、あなたは非合法の子供になり、神の子供にはなりません。私たちの信仰を試すための試練。それは素晴らしいことではありませんか？ 神は私たちが証明するためにそれらの試練と試練を私たちに与えてくださいました。

8 さて、よく見てください。これは本当に美しい箇所です。

しばらくして——ヨブがそこに座り、自分の心を知っていたとき、

そこへ小さなエリフがやって来ました。

私たちは知っていますが、この「エリフ(Elihu)」という名は

ヘブル語の「エラ(Elah)」から来ており、

「神から出た者」「神の代表」という意味です。

言い換えれば、それは主イエス・キリストの代表が下って来て、

ヨブに語りかけたということなのです。

エリフは言いました。

「さあ、ヨブよ。あなたは神を誤って非難している。」

そしてこうも言いました。

「今、あなたは目を外の自然のものに向けている。

見えるものばかりを見ているのだ」と。

彼はヨブに語りかけました。

するとヨブは、花について語りはじめました。

花がどのように枯れ、死ぬか。

しかし、春になると再び芽を出し、よみがえるのです。

またヨブは言いました。

「木が死んでも、また芽を出して生きることがある。

だが——人は倒れて、息を引き取ると、朽ち果ててしまう。

彼の息子たちは彼の死を悲しみに来るが、

彼はそれを知ることもない。

彼はいったいどこへ行ったのか？」

9 エリフは言いました。

「あなたは今までずっとそれらのことを見てきた……」

(私は今、それを少し子どもたちにも分かるように、劇のようにして言っています。)

「さて、あなたはそれを見てきたが、思い出さない。  
あの花も木も、神に対して罪を犯したことはない。  
しかし人間は神に対して罪を犯したのだ。  
それゆえに、人は神から引き離されてしまった。  
だが、いつの日か、一人の方が現れる。  
その方は、罪深い人間と聖なる神とのあいだに立ち、  
その裂け目を埋め、橋をかけるお方だ。  
罪人の上に一方の手を置き、聖なる神の上にもう一方の手を置いて、  
その間をつなぐのだ。」  
——キリストのことを語っていたのです。  
そのとき預言者(ヨブ)はそれを見ました。  
彼は立ち上がりました。  
稲妻がひらめき、雷鳴がとどろきました。  
ヨブは言いました。  
「わたしは知っている。わたしをあがなう方は生きておられる。  
そして終わりの日に、彼は地の上に立たれる。  
たとえこの皮が虫に食い尽くされても、  
この肉体において、わたしは神を見るのだ。」  
見なさい。  
彼が何年も後に死んだとき、  
どこに自分を葬るかをはっきり指定しました。  
それからアブラハムが現れました。  
サラが死んだとき、彼はヨブが葬られていた同じ土地の近くに行きました。  
そして土地を買いました。  
彼はそれを譲り受けようとはせず、自分の金で買ったのです。  
墓地とするためでした。  
そして彼はサラをヨブの近くに葬りました。  
アブラハムが死んだとき、彼もサラと同じ墓に葬られました。  
アブラハムはイサクをもうけました。  
イサクが死んだとき、彼もアブラハムと共に眠りました。  
イサクはヤコブをもうけました。  
そしてヤコブがエジプトで死ぬとき……  
——(ああ、私はこの箇所が本当に好きです。)

ヤコブは言いました。

「ここへ来なさい、ヨセフ。」

ヤコブは足の関節を痛めていました。

天使と格闘したときに、その足を打たれたのです。

見てください。

川のこちら岸にいた夜、彼は大きな背教者でした。

けれども翌朝、川の向こう岸にいた彼は、足を引きずる王子となっていました。

彼は神と格闘したのです。

そして彼は言いました。

「ここへ来て、わたしの腰に手を置き、

そしてわたしに誓ってくれ。

“わたしをこの地(エジプト)には葬らない”と。

——(なぜだろう?)——

“わたしをあのに連れ帰って、アブラハムとイサクと共に葬ってくれ。”」

なぜでしょうか？

10 それからヨセフが現れました。

彼は言いました。

「さて、待ちなさい。」

彼らは彼の骨を棺に納めました。

(私は少し前、ここで古い鉛の棺に手を置いたことがあります。

その中にヨセフの骨があると考えられていました。)

ヨセフは言いました。

「あなたがたがここを出て行くとき、

わたしの骨をあのに葬ってくれ。

この地に葬らないでくれ。」

私はなぜだろうかと思います。

聖書にはその理由は書かれていません。

けれども彼らは預言者たちでした。

彼らは行間を読むことができたのです。

彼らは知っていました。

復活の初穂がエジプトで起こるのではないことを。

それはパレスチナ(約束の地)で起こることを。

そして、イエスが地上に来られ、

彼らがその方に対して、聖書に書かれていた通りのことをしたとき、

イエスは死に、三日目によみがえられました。

マタイ27章にこう書かれています。

「地の塵の中に眠っていた多くの聖徒たちのからだによみがえり、

墓から出て聖なる都に入った。」

——アブラハム、イサク、ヤコブが。

ですから、あなたが何を持とうとも構いません。

しかし、わたしをキリストのうちに葬ってください。

なぜなら、キリストにある者たちを、

神はその再臨のとき共に連れて来られるからです。

世から離れ、隠れていなさい。

なんと美しい絵でしょう。

それが“行間”の中にあるのです。

聖書に書かれていること、

そしてその行間に見えること——

それは御言葉の他の部分とも完全に一致しています。

ただ、その隙間を埋めているのです。

「なぜ彼らがそうしたのか」とあなたが思うところを、

神は行間の中で見せておられるのです。

11 さて、私たちの巡礼の旅路において——

荒野の中で彼らがどうしたかを見てみましょう。

神が彼らを祝福し、

紅海を通して彼らを導き出されたそのあとで、

彼らは罪を犯しはじめたのです。

しかし不思議ではありませんか？

イスラエルの子らが旅を始めたとき、

神は彼らをまずどこに導かれたのでしょうか？

——死のわなの中です。

まっすぐ紅海の前へ。

背後には追い迫るファラオの軍勢。

両側にはそびえる山々。

前には海が立ちはだかっていました。

逃げ道はまったくありません。

完全に行き止まりです。

しかし、神の道は海の中を通っていたのです。

神はしばしば、私たちをそのようなところまで導かれるのです。

行き止まりのように見える場所まで。

絶望のふちまで。

しかし、そこにこそ御業の道があるのです。

そして、神はその火の柱の中から見下ろされました。

すると海が押し分けられ、

彼らはその中を渡って行きました。

神は逃れの道を備えられたのです。

神はいつの時も、どんな状況でも、

必ず逃れの道を備えられます。

見てください。

そのあと彼らはまっすぐにツインの荒野(Wilderness of Zin)へと導かれました。

不思議ではありませんか？

——ひとつの試練から、次の試練へと。

Some through the waters,

Some through the flood,

Some through deep trials,

But all through the blood.

(ある者は水をくぐり、

ある者は洪水を渡り、

ある者は深い試練を通る。

しかし——みな御血によって通り抜けるのです。)

12 神の道は——ときに、茨の藪の中をまっすぐに通り抜ける道

を通します。険しい丘を登り、

ごつごつした岩だらけの道を下りて行くこともあります。

病、試練——それらの中を通るのです。

しかし、神はそのすべてを通して、

彼らを勝利者以上の者として導き出されるのです。

見てください。

彼らは罪を犯し始め、

神に、そしてモーセに向かってつぶやき始めました。

そしてモーセが祈りに入り、

民のためにとりなしをしたとき——

神はモーセに語られました。

では、なぜモーセはとりなしたのでしょうか？

よく聞いてください。

神はそのずっと前、アブラハムの父祖の時代に、

創世記22章でアブラハムにご自身を現されました。

そのときの神の御名は、エホバ・ジレ(アドナイエレ)(Jehovah-jireh)

——でした。

それは「主はご自身で備えられる

(The Lord will provide Himself a sacrifice)」という意味です。

アブラハムが自分の独り子イサクをささげようとしていたとき、

荒野で一匹の小羊が鳴きました。

そして神は彼の手を止められました。

その場所で、神はご自身の名を「エホバ・イレ」と呼ばれたのです。

——すなわち、主はご自身でいけにえを備えられる。

アーメン。

ああ、なんと美しいことでしょう。

私は本当に御言葉が大好きです。

### 13 注目してください。その決定的な瞬間——

民のただ中に蛇たちが入り込み、人々を噛みはじめたのです。

モーセは、エジプトのあらゆる学問に通じていました。

彼ら(エジプト人)は当時、非常に優れた医師たちを擁していました。

多くの点で、私たちが今日持っている医学よりもはるかに進んでいたのです。

——今の私たちの医者など、何百マイルも引き離されるほどでした。

けれども、その医者モーセ(Doctor Moses)にも、

その蛇の咬傷を癒す治療法はありませんでした。

何もできなかったのです。

そこは荒野の真ただ中でした。

手の施しようがない。

モーセは祈りました。

そして神が彼のもとに来られ、その解決法を教えられたのです。

——私はこの場面が大好きです。

彼は何者でしょうか？

そうです、神です。エホバ・ジレ(アドナイエレ)

——「主は備えられる方」。

「主はご自身で道を備えられる」。

ああ、なんと素晴らしいことでしょう。

私は本当にこれが大好きです。

さて、見てください。

神はモーセに言われました。

これは型(タイプ)、あるいは象徴として示されたものです。

神は言われました。

「青銅で蛇を作り、それを竿の上に掲げなさい。」

さて、蛇という象徴は「罪」を意味していました。

その蛇は、エデンの園にいた蛇を象徴していたのです。

——すでに裁きを受けた存在として。

かつて蛇は「動物」でした。

彼は爬虫類ではありません。

聖書はこう言っています。

「彼は野のすべての獣のうちで最も狡猾であった」と。

つまり、もともと彼は獣(ビースト)であり、爬虫類ではなかったのです。

しかし彼はのちに裁かれて、腹ばいで進む蛇となりました。

その蛇は裁かれた罪を象徴していたのです。

そして、それが青銅で作られたということは、

「神のさばき(Divine judgment)」を意味していました。

青銅とは、聖書の中では神のさばきを示す金属なのです。

見てください。

民は罪を犯していました。

なぜなら彼らは預言者を信じなかったからです。

彼らはモーセに、そして神に逆らって不平を言い争っていたのです。

彼らは罪を犯しました。

そして罪のゆえに、蛇に噛まれ、死にかけていたのです。

14 そして——すべての病は、罪によって引き起こされるのです。

そうです、そのとおりです。

罪が存在する以前、私たちには病などありませんでした。

しかし罪が入り、そして……

**病は罪の属性(性質)なのです。**

病は、罪の結果としてやって来たのです。

それは、あなた自身が行った罪のせいでないかもしれません。

——先祖から受け継がれたものかもしれません。

三代、四代にわたって、その影響は続くのです。

神ご自身がそう仰せられました。

見てください。

そこで神は、このしるし——旗印(エンサイン、ensign)——をイスラエルに掲げるように、モーセに命じられました。

そして彼がそれを高く掲げたとき、

そこには二つの目的がありました。

病と罪、その両方のためのものだったのです。

エホバ・イレ(Jehovah-jireh)——「主は備えられる方」——は、

イスラエルのために一つの旗印を備えられました。

それは、「彼らの罪は赦された」ということ、

そして「彼らの病は癒された」ということを象徴していたのです。

分かりますか？

その蛇は——「裁かれた罪」を表していたのです。

## 15 青銅(Brass)……

見てください。

青銅というものは——一切、手を加えることができない金属です。

青銅は焼き入れ(tempered)できません。

もし、あなたがどこかで「焼き入れされた青銅」を見つけることができたなら、

——あなたの半年分の什一献金で、

私は五十年間、世界中を宣教旅行して回れるでしょう。

それほど、そんなものは存在しないのです。

青銅は焼き入れ不可能です。

これが示しているのは、

神が青銅を「神のさばき(divine judgment)」の象徴としてお用いになったということです。

そして、**神のさばきは決して和らげられない(tempered されない)**ということ。

神は昨日も、今日も、永遠に変わらないお方なのです。

——さあ、ここです。

私はあなたにこれをしっかり理解してほしい。

よく見てください。

青銅……。

たとえば、**燔祭の祭壇 (the brazen altar)**があります。

いけにえが焼かれるその祭壇は、青銅で覆われていました。

なぜでしょう？

それは「神のさばき」——**聖なるさばき (divine judgment)**を表していたからです。

また、預言者エリシャの時代にも、

彼が空を見上げたとき、こう言いました。

「天は青銅のようだ (brass)。」

それは、背く民に下った神のさばきを意味していたのです。

——神よ、あわれみたまえ。

時に、ここアメリカの空も、まるで青銅のように見えることがあります。

神のさばき——

祈りが届きにくい、

天が閉ざされている——

それはさばきなのです。

## 16 見てください。そしてその**旗印 (エンサイン、ensign)**

が掲げられたのです。

その美しい型の一つが、**ルツ記**に描かれています。

あなたがたの多くは、ルツ記をただ「聖書の中の小さな愛の物語」として読んでおられるかもしれませんが。

——確かに、それはそうでもあります。

けれども、ああ、なんと美しい物語でしょうか！

それはまさに、キリストとその教会を表しているのです。

ナオミがモアブの地に渡ったことを思い出してください。

その地で、彼女の夫は死にました。

そして彼女の二人の息子も死に、二人の未亡人が残されました。

帰り道の途中——なんと美しい場面でしょう。

よく聞いてください。

モアブの女、ルツ。彼女は異邦人であり、

かつて私たちと同じように、もの言わぬ偶像に

引きずられていた者でした。そして帰る時が来たとき、

ナオミはルツに口づけをして言いました。

「あなたは自分の民のもとへ帰りなさい。

あなたの民と共に生きなさい。

私はひとりで帰ります。」

しかしルツは言いました。

「あなたの民を、わたしの民とさせてください。

あなたの住むところに、わたしも住まわせてください。

あなたの死ぬところで、わたしも死にます。

そしてあなたの葬られるところに、わたしも葬られます。

あなたの神を、わたしの神とさせてください。」

——なんと美しい類似でしょう!

それは、若い異邦人の教会(Gentile church)が、

古いユダヤ人の教会(Jewish church)を通して入ってくる姿なのです。

すなわち、まず福音を担ったのはユダヤ人でした。

ああ、なんと驚くべきことでしょう!

なんと素晴らしいことでしょう!

17 出来るならば、さあ、今この流れの中にいるうちに、

その情景をはっきりと描いてみましょう。

さて、見てください。

ルツはナオミの勧めを退けて、

——戻らなかったのです。

彼女は前へ進みました。

そして気づきましたか?

ナオミがベツレヘムに帰ってきたのは、

ちょうど大麦の収穫の季節だったのです。

——まさにぴったりの時に帰ってきたのです。

人々が大麦を刈り取っているその時に。

そしてボアズは彼女の親類の一人(kinsman)であり、

彼は自分の広大な畑を収穫していました。

ボアズはまさに「収穫の主(the lord of the harvest)」でした。

一方、若い未亡人ルツは、

落ち穂を拾うために畑に出て行きました。

——これは、異邦人教会(Gentile Church)が拾い集めている

型なのです。アーメン。

彼女たちはただ、拾えるものを拾っていた。

前に行く刈り取り人たちのあとをついて。

人々は言いました。

「あなたがたはペンテコステの祝福を持っていないじゃないか。」

「ああ、でもね、私たちはちゃんと拾っているんですよ。」

見てください——収穫の主が、

その小さな女性が畑に出て、

一つ一つ、拾えるものを拾っているのをご覧になったときのことを。

ここに少しの祝福を、

あそこにもう一つの祝福を——

それが彼女にとっての命だったのです。

——なんと今日の教会の美しい型でしょう!

するとボアズは、

刈り取り人たちにこう言いました。

「ときどきでいい、一握り落としておきなさい。」

私はそれを見つけるのが大好きです。あなたはどうですか?

「彼女のために少し落としておいてやりなさい。」

彼女はわたしに好意を得たからだ。」

——アーメン。私はこれが大好きです。

たとえ彼女が世の中から見ればはみ出し者であろうと、

あるいは「ホーリーローラー」と呼ばれようと、

そんなことは関係ありません。

「ただ、ときどきでいい、いくつかの穂を落としてやりなさい。」

わたしは彼女が気に入っているのだ。」

18 ボアズは言いました。

「あの女は誰だ? どこから来たのだ?」

そして、収穫が終わったとき、

その偉大なる収穫の主——

すなわちボアズは、教会に対するキリストの象徴でした——

彼は彼女を愛するようになったのです。

そして彼は彼女と結婚したいと願いました。

けれども、その前に、彼はしなければならないことがありました。

それは、ナオミの失われた相続地を贖うことでした。

そして、その地を贖うためには——律法、すなわちレビの律法によれば——

**彼は親類の一人**でなければならなかったのです。

——**近い親類**で。

このことを思うとき……ああ、胸が熱くなります。

律法は、彼が**近い親類**であることを要求していました。

そしてまた、彼はふさわしい者、

**名誉ある人**でなければなりませんでした。

さらに、彼はそれを贖うための**力(経済的な能力)**を持っていなければなりませんでした。

そして最後に、

彼がすべてを贖ったならば、

そのしるしとして**旗印(ensign)**を立てなければならなかったのです。

見てください。

親類(kinsman)——。

神……。

人は最初、神のかたちに造られました。

そして神は**霊**であります。

それゆえ、

その人間を贖うためには、

神ご自身が**罪深い肉のかたち**をとって、

**親類**とならなければならなかったのです。

——それが**キリスト**です。アーメン。

キリストは親類となられたのです。

神は私たちの親族となられました。

私たちと同じ肉と血をとられたのです。アーメン。

なんと美しい物語でしょう!

聖書全体が、至るところで完全に結びついているのです。

何ひとつ無駄なものはありません。

すべてが一つに結ばれているのです。

19 ボアズは、ナオミの**親類**でなければなりませんでした。

神もまた、教会を贖うためには「親類」でなければならなかったのです。

そして神は下って来られ、

ご自身の上に**罪深い肉のかたち**を取られました。

——アーメン。

彼はふさわしいお方でした。彼は神の御子でした。

彼は贖うに足るお方であられました。

なぜなら、彼は天のすべてと地のすべてをお持ちだったからです。

見てください。そのあとボアズは、イスラエルの人々を集めました。

そして忘れないでください。

旗印は町の門の外で掲げられなければならなかったのです。

——これをしっかり心に留めてください。

ボアズはそこへ出て行き、イスラエルの長老たちを連れて来ました。

そして言いました。

「もし誰か異議があるなら、今ここで申し立てなさい。

そしてこの日に、私はナオミの失われた相続地)を贖ったことを証しなさい。」

そして彼は靴を脱ぎ、それをイスラエルの人々の中に投げ入れました。

それが当時の慣習だったのです。

——それは、旗印でした。

彼がナオミと、彼女の持っていたすべてのものを贖った旗印だったのです。

20 なんと美しい型でしょうか——

神ご自身が肉となり、私たちの間に住まわれたのです。

神は下って来られ、苦しみを受け、死と刑罰を担われました。

罪のない方が、罪ある者のために。

美しい方が、醜い者のために。

このことを思うだけで、人の心は打ち砕かれます。

神が、あなたや私のような失われた罪人のために、

そこまでなさらねばならなかったのです。

——旗印(エンサイン)は掲げられねばならなかったのです。

その蛇……それがイエスだということですか？

そうです。

あの青銅の蛇こそがイエスを表していたのです。

それが「旗印」でした。

罪を知らなかったキリストが、

私たちのために「罪」となられたのです。

ご覧なさい。

彼は打たれました。

神の正しい裁きが支払われなければならなかったからです。

「あなたがそれを食べるその日、必ず死ぬ」——

神の御言葉は破ることができません。

そこに彼は立っています。

ピラトの法廷で。

人々の嘲りと唾がその顔に垂れかかり、

彼をあざけりながら見下す者たちの前に、

彼は沈黙して立っておられました。

あの手は、やもめの息子を甦らせた手。

罪の女に平安を語られた手。

その目は、かつて群衆を優しく見つめられた目。

今は血に染まり、

その顔には会衆と兵士たちの唾が流れています。

彼は歩みます。

見てください。

その衣に小さな赤い点が見えます。

丘を上るにつれ、その赤い点は大きくなっていきます。

やがてそれらはひとつに溶け合い、

血に染まった衣が彼のわき腹に当たって音を立てます。

そしてゴルゴタの丘に着くと、

人々はその手に釘を打ち、

彼を掲げ上げました——

まさに「旗印」として。

彼は教会を贖われました。

彼女の失われた地所を取り戻されたのです。

彼は言われました。

「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。」

なぜでしょう？

それは二重の理由によるのです。

彼らは罪を犯し、病にかかっていた。

それゆえ彼はそれを掲げられたのです。

彼らの救いと癒しのために。

「彼は私たちのそむきのために傷つけられ、

その打ち傷によって、私たちは癒された。」

——旗印が掲げられたのです！

なんとこの美しさでしょう。

21 そこにおられるのです——

神の御子が、あなたのための**旗印(エンサイン)**として掲げられて。

「モーセが荒野で青銅の蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。」

——まったく同じなのです。

同じ理由、同じ意味、同じ出来事。

では、神がこの旗印を世に掲げられたとき、何をされたのでしょうか？

神は今夜、この教会に、

そして全世界にお示しになったのです。

すなわち、

神は教会と民の失われたすべての地所を贖われたということ。

では、私たちの失ったものとは何でしょうか？

もしあなたが救いを失っているなら——

彼こそが世の罪のための旗印なのです。

なんと痛ましいことでしょう！

それではあなたは、

**神の癒しの力を否定できるとも言うのですか？**

——そんなことはできません。

聖書がはっきり言っています。

イエスが言われたとおりです。

「モーセが荒野で青銅の蛇を上げたように、

人の子も罪と病のために上げられねばならない。」

そうです。

そして今夜、彼はここにおられるのです。

彼は**今も掲げられたまま**なのです。

かつて墓に葬られましたが、

神が**彼をよみがえらせられました**。

そして今、

その**御霊**が私たちのただ中におられます。

しるしと不思議をもって、今も働かれています。

あなたはそれを信じますか？

22 今、主は備えておられます。

——救いを望む者は、誰でも救われるように。

どうして、カルバリ(ゴルゴタ)の情景を心に描いて、  
なおも罪人のままでいられるでしょうか？

どうして、あなたの代わりにゴルゴタの丘を登り、  
十字架につけられようとしている神の御子を見て、  
なおも罪の中にとどまれるでしょうか？

罪ある人間であるあなたの代わりに、  
あの尊い神の子が丘を登って行かれるのです。  
あなたの代わりに死なれようとしているのです。

どうして、彼の背中から血が流れ落ちているを見ながら、  
その背中が私たちの癒しのために打たれたと知りながら、  
なおも神の癒しを否定できるでしょうか？

——神よ、あわれみたまえ。

主よ、私を生かしてください。

私がこのことを証しする者となれますように。

たとえ全世界がそれを退けたとしても、

私は、主よ、あなたを信じます。

私はなお信じ続けます。

もし今夜、私が説教して、千人が救われ、  
聖霊に満たされ、そして死んだとしても——

五十年後に彼らが戻ってきて、こう言ったとしても、  
「ブラナム兄弟、その道は正しくなかった」と。

それでも私は言うでしょう。

「私はキリスト・イエスのうちに死なせてください。」

もし私が千人のために祈って、  
全員が翌朝死んだとしても、  
翌晩、私は再び神の癒しを説き、  
病める者のために祈るでしょう。

——今夜と同じように、何のためらいもなく。

なぜなら、それは神のことばだからです。

それは失敗することのない神のことばなのです。

神はそれを私たちに与えてくださいました。

それを通り過ぎてはいけません。

それを抱きしめなさい。

約束をつかみ取りなさい。

そしてこう言いなさい。

「これは私のものです、主よ。

あなたは私のために死なれました。

今夜、私は自らをあなたの証しとして掲げます。

私はあなたの旗印になりたいのです。

世界に知らせたい。

あなたが私の救い主であることを。

私はクリスチャンとして立ち上がり、

自分をあなたの証しとして掲げます。

あなたを信じます。

そして行って語ります——

あなたが私を救ってくださったと。」

そしてもし、あなたが病んでいるなら、

今すぐ立ち上がりなさい。

こう言いなさい。

「私は自分の癒しを受け取ります。

イエス・キリストが旗印として掲げられ、

私の癒しのためにその背に鞭を受けられたように、

私も自分の証しを掲げます。

“その打ち傷によって、私は癒された”と宣言します。」

アーメン。

——ああ、なんといい愛でしょう！

23 さあ、見てください。

イスラエルの民は青銅の蛇を仰ぎ見て、癒されました。

彼らは青銅の蛇を見上げたのです。

まず、罪の赦しを受け、

そして次に、癒しを受けたのです。

ある預言者が——いや、ある詩人がこう言いました。

「見よ、そして生きよ、我が兄弟よ、生きよ。

イエスを見上げよ、今、そして生きよ。

それは御言葉に記されている。ハレルヤ!

ただ見上げることによって、あなたは生きるのだ。」

今夜、私たちは神の旗印(エンサイン)——

すなわち神の御子を見上げましょう。

聖霊の力によって、

この真理は何世代にもわたり説かれてきました。

聖霊がこの場に来られ、

しるしと不思議と奇跡を行い、

今もなお、あの主イエスが同じ方であることを示しておられます。

それなのに、どうしてあなたは、

神がこのように働かれることを疑って、

神の怒りを逃れることができるでしょうか?

……さあ、しばらくの間、頭を垂れましょう。

24 いま、いのちの偉大なる主がおられます。

「ブラナム兄弟、私はこれまで、

そういうふうに深く考えたことがありませんでした。

自分の救いのためにどれほどの代価が支払われたか——

そんなことを考えたことがなかったのです。

私はいつも、それをなおざりにしてきました。

でも今夜、癒しの祈りに入る前に、

私はキリストに向かって小さな旗印を掲げたいのです。

地上で罪を犯したこの私のために

あの方が死なれたことを、

今夜、私ははっきりと認めたいのです。

どうか主が、私にあわれみを注いでくださいますように。

私はまだ救われてはいません。

けれども今夜、私は主に救っていただきたいのです。

主があな十字架で

私のために高く掲げられたように、

私は今ここで、

この小さな手を主への旗印として掲げます。」

——そう願う方は、今この時、

すべての方が頭を垂れている中で、

静かに手を上げてください。

……神があなたを祝福されます、婦人よ。

神があなたを祝福されます、兄弟よ。

後ろの方、中央の列の奥の方にも手が上がっています。

はい、見えます。

あちこちで手が上がっています。

左の方にも——ありがとうございます。

「ブラナム兄弟、私はキリストに手を上げます。

主は私をご覧になっています。

私は罪人のまま死にたくありません。

今この時の祈りの中で、

私のことを思い出してほしいのです。」

——神があなたを祝福されます、兄弟よ。

神があなたを祝福されます。

神があなたを祝福されます。

ああ、なんということでしょう！

会場のいたるところで、幾十人もの手が上がっています。

「私は罪人のまま死にたくないのです、ブラナム兄弟。

この集会の中で、

私は確かに主の御姿を見たのです。

主が人々の間を静かに歩み、

彼らの心の思いを明らかにされ、

彼らの行いを示されているのを見ました。

そして御言葉が説かれるのを聞きながら、

私は長い間、それを拒んできました。

けれども今夜——

私の心の奥深くで、何かが語りかけているのです。」

それが神です、罪人の皆さん。

「誰も、父が引かれなければ、わたしのもとに来ることはできない。」

もう一度、尋ねます。

皆さん、どうぞ頭を下げたままです。

私だけが見ます。

手を上げてください。

こう言ってください。

「ブラナム兄弟、どうか祈ってください。

私が神の裁きの御座に罪人のままで立たなくてもよいように。

私は救われたいのです。」

……はい、もっと高く、会場のあちらこちらで。

神があなたを祝福されます。

神があなたを祝福されます。

至るところで。

——その通りです。

では、皆さんが頭を垂れたままで、

私はあなたがたのために神に祈ります。

25 天の父よ——この会場のあちらこちらで、

多くの手が上がりました。通路のあちこちに、

罪ある男たち、女たち、少年少女たちがいます。

彼らは、生きたいと願っています。主よ。

私はその中に、多くの年老いた方々を見ます。

髪の白くなった方々もいます。

私たちは皆、いつの日かこの肉の幕を越えて行かねばならないことを知っています。

私たちは、まるで壊れやすい生命の糸の上を歩いているようなものです。

主イエスよ、私は祈ります。この礼拝の終わりに、

これらの人々が聖書の御言葉と

キリストの復活の力によって心から確信し、

前に出て、心をあなたにささげ、

あなたを自分の救い主として受け入れますように。

神よ、どうか一人として、救われぬまま

この世を去ることのないようにしてください。

今夜こそがその時となりますように。

今この時に、彼らが決断をなしますように。

私は知っています——あなたが彼らに語っておられることを。

なぜなら、あなたの愛する御子ご自身が言われたからです。

「誰も、父が引かれなければ、わたしのもとに来ることはできない。

しかし、わたしのもとに来る者を、

わたしは決して捨てない。

わたしの言葉を聞き、  
わたしを遣わされた方を信じる者は、  
永遠のいのちを持ち、  
裁きに遭うことはなく、  
死からいのちへと移っている。」

——ただ、神の御子を信じるというその一つの理由のために。

ああ、主よ。

この大なる世界が、たったその一つのこと——

主イエスを拒むことによって滅びへと向かっているのを見るのは、なんと悲しいことでしょう。

どうか今夜、多くの人々が救われますように。

そして今、

聖霊が下ってこられ、

主の御使いをこのへりくだったしもべのもとに遣わしてください。

私が病める者たちのために祈るとき、

それぞれがカルバリを仰ぎ見て、こう言えますように。

「あれこそが、私の旗印です。」

私は心から信じます。

私の癒しを信じます。

今夜、私は喜びと感謝をもってこの場を去り、

私の癒しを受け取ります。」

主よ、どうかそのようにしてください。

私たちはこのすべてを、

主イエス・キリストの御名によって願い求めます。

——アーメン。

26 今夜、私がこの講壇に上がってきたとき、

牧師の一人が私に尋ねました。

「ブラナム兄弟、次の日曜日まで滞在してくださらないでしょうか?」と。

私は答えました。

「主にお伺いしてみます。」

もし人々の心も、すべてのことも良い方向にあるなら、

おそらく主がそのように導いてくださるでしょう。」

私たちは、最初はなかなか難しい出発でしたが——

[テープ切れ]

……ある兄弟が、別の兄弟の肩に手を置いて、こう言いました。

「もし私が最初から、このメッセージを燃えるようなペンテコステ派の人々に持って行っていたなら、今のように苦しんだり、死にかけたりはしなかつたらう。」

彼は、それを神を知らない人々に売り込もうとしたのです。

新しく生まれ変わってもいない人々に。

だから、彼らには何の理解もなく、

それはただ彼を苦しめ、悩ませ、

彼の体にカビのような腫瘍を生じさせ、

それがやがて癌となって彼を死に至らしめたのです。

——友よ、どうか神との関係を正しく持ちなさい。

それを忘れないでください。

彼はこう言いました。

「上の方にムーディー聖書学校があつて、

そこから小さなカルテット(四重唱隊)がやって来て、

私のために歌ってくれている。

“主よ、我をみもとに近づけたまえ(Nearer My God To Thee)”を歌っている。」

もしあなたがそのポール兄弟を知っていたなら、

彼がどんな人物だったかご存じでしょう。

彼は陽気で冗談好きな人で、まるでバクスター兄弟のような人でした。

彼は言いました。

「おい、一体どっちが死ぬんだ？ 君か、私か？」

「カーテンを上げてくれ、そしてもう少し元気な福音の歌を歌ってくれ。」

すると彼らは歌い始めました——

“十字架のもとにて(Down At The Cross)”を。

彼は言いました。

「ルークはどこだ？」

それは彼の兄弟でした。

二人は、まるで私と息子のように、いつも共に働いていました。

ルークが隣の部屋で泣きながら入ってきました。

ポールは彼の手を取り、言いました。

「ルーク、俺たちは長い道のりを共に歩いてきたな、相棒。

でも考えてみろ。あと五分もすれば、

俺はイエス・キリストの御前に立ち、

その義の衣をまとっているんだ。」

——偉大な人々の生涯は、私たちに思い起こさせます。

私たちもまた、

自らの生涯を高めることができるのだと。

そして、別れに際して、

時の砂に足跡を残すことができるのだと。

27 あなたがしなければならないことは、ただ信じることです。

ポール・レイダーは、フォートウェインでこの賛美歌を書きました。

(あのフォートウェインの集会に来ておられた方はいますか?)

私はあの時、彼の書斎に座っていました。

そこにいたのは、レディガー氏(Mr. Redigar)——信仰の勇士、まことに気高い人でした。

何年も前のことです。

私がまだほんの小さな少年だったころ、

彼の娘さんが精神病院に二年間入院していました。

完全に正気を失っていたのです。

彼らはその娘を、私の教会の裏にある石炭小屋(coal shed)に入れていました。

彼女はそこに座り込み、

自分の美しい髪をかきむしりながら、

「五セントと一ペニー、五セントと一ペニー……」と繰り返していました。

——完全に錯乱していたのです。

彼女の姉も、同じ状態で亡くなっていました。

ある日、私は耳にしました。

「レディガー氏の娘さんが、あの石炭小屋に横たわっている」と。

私はそこへ行きました。

中には、あの愛らしいレディガー夫人が座っていました。

とても優しく、敬虔な女性でした。

彼女は娘に言っていました。

「まあ、いい子だから、そんなことしないでおくれ。」

私はそつと扉を開けて入りました。

その瞬間、一つの幻が彼女の前に現れたのを感じました。

私は思いました。

「彼女の父上——あの信仰の戦士として、最後まで走り抜かれた人——のことを。」

そのとき、悪しき霊が彼女を捕らえているのを見ました。

主が私に叱責の言葉を与えられました。

私は言いました。

「この娘から出て行け！」

すると、彼女は顔を上げて言いました。

「お母さん……ここはどこ？」

——その瞬間から、彼女は完全に癒されたのです。

今では彼女は結婚し、子どもたちにも恵まれています。

あの時から、神は彼女を完全に健やかにされたのです。

彼女こそが、B・E・レディガー夫人——

フォートウェイン・ゴスペル・タバナクルの現在の所有者です。

多くの方が彼らをご存じでしょう。

どうぞ彼女に手紙を書いて確かめてください。

——何が起こったのか？

ただ、「見よ、そして生きよ(Look and live)」。

それが、キリストの恵みなのです。

28 (ポール、すべての準備はできていますか?)

[テープ切れ]——では、今、静かに、敬虔な心で聞いてください。

私が皆さんにお願いしたいことがあります。

これまでに、私の集会に出席されたことのある方は、

どれくらいいらっしゃいますか？どうぞ手を挙げてください。

[テープ切れ]

さて、イエスが地上におられたときのことを思い出してください。

イエスがこの世におられたときにされた御業について、

こうおっしゃいました。

「わたしがしているのではない。

わたしのうちにおられる父が、そのわざをなさっているのだ。」

——そうではありませんか？

そして、ヨハネの福音書の第五章を開くと、

イエスがベテスタの池の門を通り過ぎられた場面があります。

そこには、多くの病人——足の不自由な人、目の見えない人、手足の萎えた人たち——が集まっていました。

そうですね、クリスチャンの皆さん。

けれども、イエスはその中の一人もお癒しになりませんでした。

イエスは愛と憐れみに満ちておられたのに、です。

ただ一人——床に伏していたある男のもとに行き、その人を癒されました。

そして、そのことを見たユダヤ人たちがイエスを問いただしたのです。

では、イエスが何と答えられたか、聞いてください。

ヨハネの福音書5章19節、聖書の言葉です。

「まことに、まことに、あなたがたに言います。

子は、自分からは何事も行うことができません。

父がなさることを見て、それをそのまま行うのです。

父がなさることは、子も同じように行うのです。」

——つまり、イエスはこう言われたのです。

「私は、父が示されるまでは何もできない。

父が私に何をしよう示されたなら、それを行う。

それ以外のことは、何もできない。」

——これは聖書の言葉です。

ですから、イエス・キリストは、

父なる神が示されるまでは、一つの奇跡も行われなかったのです。

神が彼に幻を見せ、

「これをしなさい」と示されたときにのみ、イエスはそれを行われました。

「父が子に見せられることを、子を見る。

そして、父がなさることを、子も同じように行う。」

——イエスはまさにそのように生きられたのです。

29 主は言われました。

「しばらくすれば、この世はもはやわたしを見ない。

しかし、あなたがたはわたしを見る。

わたしはあなたがたと共におり、

世の終わりまで、あなたがたと共にいる。」

——この「世」とは、不信仰な人々を指しています。

この御言葉は、インディアナ州コナーズビルであろうと、

あるいは世界のどこであろうと、変わることはありません。

もしイエスが本当に死からよみがえられたのなら、

その御霊(すなわち神ご自身)——聖霊のうちにあるキリスト・イエスが

今日もなお、人々の間を動かれておられるということです。

そして主は、教会の中にそれぞれの働きを立てられました。

宣教者、教師、預言者……。

それらは何のためでしょうか？

人が自分を高めるためではありません。

教会を建て上げるため、

そして教会をキリストにある生きた信仰へと導くためなのです。

主はその目的のために彼らを立てられました。

さて、もしイエスの御言葉が真実であり、

そしてパウロがヘブル人への手紙13章8節で

「イエス・キリストは、昨日も今日もいつまでも変わる事がない」と語ったなら、

主が言われた「世はもはやわたしを見ないが、信じる者は見る」という言葉も、

今も変わらず成り立っています。

イエスはこうも言われました。

「わたしのするわざを、あなたがたもまた行うであろう。」

主は人々の心の思いを知っておられました。

そうですね？

彼らが何を考えているかを見抜いておられたのです。

そして、父が彼に示された幻——

たとえば、魚の口にコインがあることや、

他の出来事などを——ご覧になったとき、

イエスはその通りに行動されたのです。

30 ある日、数人の盲人の少年たちが、イエスの後を通りについて来ました。

彼らは叫びました。

「主よ、あわれんでください！ あわれんでください！」

しかしイエスは、彼らに目を向けることなく、そのまま歩き続けられました。

そして家の中に入られたのです。

そのとき、人々がその盲人の少年たちをイエスのもとへ連れて来ました。

イエスは振り向いて、彼らに触れ、こう言われました。

「あなたがたの信仰のとおり、そうなりなさい。」

——幻による導きではなく、信仰による癒しでした。

「あなたが信じたとおりになるように。」

——そう言われたのです。

それが真理です。

また、あの女性がイエスの衣のすそに触れたときも、

イエスはこう言われました。

「あなたの信仰が、あなたを救ったのだ。」

今夜、あなたがカルバリのイエス——旗印を見上げるとき、その御業の完成を信じる信仰こそが、あなたを癒すのです。

いま、イエスの御霊はここにおられます。

あなたの人生を主の前に隠すことはできません。

しかし、こうも言わねばなりません。

主はあなたを「今」癒すことはできません。

なぜなら、それはすでに十字架で完了しているからです。

主が旗印として高く上げられたとき、

その瞬間、あなたは病から贖われ、罪から贖われたのです。

——(少し間をおいて)

……今夜、そのことを疑っている者が、この中にいるようです。

何か、私の心に強く戻ってくるものがあります。

すぐにその人を見つけることになるでしょう。

よろしい。

31 ついこの間、私はある男性と話をしていました。

その人が言いました。

「牧師さん、あなたは神の癒しが贖いによるものだと信じていますか？」

私は答えました。

「はい、そうです。」

すると彼は言いました。

「もし私が、それが間違っていると証明したら、イザヤが言ったことについて、あなたはどう受け取りますか？」

私は言いました。

「ええ、もちろん、教えてください。」

彼はさらに言いました。

「もしそれが間違っていると証明したら、あなたはそれを受け入れますか？」

「はい。もし本当に誤っていると証明されるなら、私は神の前で正しくありたいですから。

神はご存じです。私は心から神と正しい関係にいたいのです。」

彼は繰り返しました。

「では、もし私が間違いだと証明したら、それを認めますね？」

「ええ、もちろんです。」

すると彼は言いました。

「マタイの福音書第8章にはこうあります。

“彼らが病人たちをイエスのもとに連れてきた。

それは、預言者イザヤによって語られた言葉が成就するためであった。”

つまり、「イエスは私たちの咎のために傷つけられた。

その打ち傷によって、私たちは癒された」——この箇所です。

彼は言いました。

「あなたはこれを贖いの成就として適用するのですか？」

「そうです。」と私は答えました。

すると彼は、「それはおかしい」と言うのです。

それで私は言いました。

「それなら、もしあなたの言うことが本当なら、

贖いは実際に成し遂げられる前のほうが力があつたということになりますね。

なぜなら、それはイエスが十字架で死なれる一年半も前の出来事だからです。

まだ贖いがなされる前に癒しが起きているなら、

贖いが完成した後よりも前の方が力があつたということになってしまいます。」

そして私は続けました。

「それでは、ペテロが美しの門で癒したあの男はどうなるんです？

彼はどんな力によって癒したんですか？」

するとその人は言いました。

「それは十二使徒だけに与えられた力でした。」

私は言いました。

「なんということを言うんですか。あなたは博士号を持っているのでしょうか？

恥を知りなさい。

私の家には八歳の息子がいますが、

彼のほうがもっと聖書をよく知っていますよ。」

「十二使徒だけだと言うんですか？」

「そうだ」と彼は答えました。

私は言いました。

「それならピリポはどうなります？

彼は使徒ではありませんでした。

ただの執事(ディーコン)でした。

それでも彼は町に下り、

病人を癒し、悪霊を追い出し、  
大いなるリバイバルをもたらしました。

——それだけではありません。

他にも多くの人々が、同じように神の力を働かせたのです。」

32 さて、その人はさらにこう言いました。

「ブラナム兄弟、もし神の癒しが贖いに含まれているのだとしたら、  
その力はあまりにも完全すぎて、痛みさえ存在しないはずですよ。」

そこで私は言いました。

「では、あなたに一つ尋ねましょう。

誘惑というものは、ありますか？」

彼は答えました。

「あります。」

「ならば、痛みもあるということです。

もし贖いが罪を完全に滅ぼしてしまったのなら、

もう誰も誘惑されることはないはずですよ。

しかし現実には、誘惑があります。

それでも私たちは信仰によって誘惑に打ち勝つのです。

同じように、信仰によって痛みにも打ち勝つのです。

それが、贖いの中に含まれているということです。」

そして私は続けました。

「この話をこれ以上争うつもりはありません。

ただ一つだけ尋ねます。

神の癒しは御言葉の中にありますか？」

彼は答えました。

「はい、あります。」

「その通りです。そう信じざるを得ません。

なぜなら、イエスご自身がこう言われたからです。

『わたしのする業を、あなたがたも行うであろう。

また、あなたがたが何を願うにも、

祈るとき、それを受けたと信じなさい。』

——それが神の癒しであれ、他の何であれ、

主はそう約束されたのです。」

彼は言いました。

「ええ、御言葉には書いてありますが、それは贖いの中には含まれていません。」

私は答えました。

「ではもし、御言葉の中にあるのなら、それは贖いの上に立つものということになりますね。」

「なんだって?」と彼は言いました。

「ブラナム兄弟、それはばかげている!」

その場には、ある有名な聖歌隊の歌手と、人気のラジオ伝道者も立ち会っていました。

彼らは非常に有名な人たちでしたが、

その一人がこう言いました。

「ブラナム兄弟、それはおかしいですよ。

あなたは御言葉が贖いの上にあると言うんですか?」

私ははっきりと答えました。

「ええ、そうです。主はご自身の御言葉を守られる方です。

私は、神が語られたことこそ真理だと信じています。」

すると彼は言いました。

「そんなはずはない。」

33 私は彼に言いました。

「兄弟、こういう話があります。

昔、ある王様が国を治めていました。

その王国には厳格な掟と規則が定められており、

王がそのすべてを制定したのです。

そしてある罪を犯した者には、死刑という罰が定められていました。

ところが、ある奴隷がその罪を犯してしまいました。」

——私は彼に、少したとえ話として語り始めたのです。

「奴隷が王の前に連れて来られました。

王は言いました。

『お前はこの罪を犯したのだな。

この罪の罰は“死”である。

どうすることもできぬ。』

その男は震え上がりました。

すると王が言いました。

『お前の命を取る前に、  
何かしてほしいことはあるか?』

男は言いました。

『一杯の水をください。』

王は水を持ってこさせました。

しかし、その男は恐怖のあまり、  
コップをまともに持つことができませんでした。

今にも首をはねられるとわかっていたのです。  
手が震えて、水がこぼれそうになっていました。

すると王は言いました。

『待て。』

お前がその水を飲み終えるまでは、  
命を取らぬと誓おう。』

するとその奴隷は、  
その水を地面にこぼしてしまいました。」

私は言いました。

「さて、王はどうするでしょう?」

その人は答えました。

『ああ、それは王の“失策”ですね。』

私は言いました。

『そうですか?』

では、神もそれほどいい加減な方で、  
御言葉の中に“誤り”を残されたとも言うのですか?  
贖いを設けずに?』

——そんなことはありません。

私は言いました。

「兄弟よ、それも贖いの中に含まれているのです。

そうです。

もしそれが御言葉に記されているなら、  
神は必ずその御言葉を守られなければなりません。  
もし神がご自分の御言葉に忠実なお方であるなら、  
その御言葉を実現なさるのです。

主はこう言われました。

『あなたがたが祈るとき、  
願うものは何でも、  
すでに受けたと信じなさい。  
そうすれば、それはあなたがたのものとなる。』

——その通りです。

神はそれをあなたにお与えになるのです。

さあ、ただ信じなさい。」

34 さて——よろしい。その女性を連れてきてください。

さあ、こちらにどうぞ、おいでなさい。

[テープ中断]……ああ、小さな帽子をかぶっていますね。

たぶんアーミッシュの方でしょう。

さて……私はこの女性をこれまで一度も見たことがありません。

まったくの他人です。

彼女の何を何も知りません。

あなたも私を知りませんか？

そうですね。今まで会ったことはありません。

では、こちらにおいでください。

できるだけマイクから離れすぎないようにしましょう。

声が時々小さくなることがありますからね。

さて、よく聞いてください。

あなたはいま、二つの次元(ディメンション)にいるのです。

二つの世界を同時に見ている状態です。

あなたはいまこの場所に立っているのと同時に、

あなたが幼いころに起こった出来事を見えています。

あなたの人生のどこかで起こった、

過去のある場面を見ているのです。

つまり、あなたはいま二つの場所に同時に存在しているのです。

私も同じです。

私はあなたと話していますが、

同時に別の場所において、

しかも意識ははっきりと保たれています。

しかし肉体としては、私はこの壇上に立っているのです。

これが私を非常に弱らせ、消耗させる原因なのです。

——思い出してください。

預言者ダニエルも、ある日幻を見て、  
その幻によって何日も心が悩まされたと聖書に書かれていますね。  
また、聖書にこうもあります。

天使が池に降りてきて、水を動かしたとき、  
最初に入った者が癒された。

しかしそのとき、水の力(徳、virtue)はすべて抜けてしまい、  
次にそれが戻るまで、ひと月、あるいはもっと長く待たなければならなかったのです。

——あの聖書の中の出来事を、あなたも覚えていますね？

35 さて、私は今、あなたに話しかけていますが、  
それはちょうど主イエスがサマリアの井戸の女に語られたときの  
ようにしているのです。

あなたには、私と同じように人間の霊があります。

そして、私たちはまったく初対面の他人です。

しかし、ある意味で——霊の次元では——私たちはいま、  
つながっているのです。あちらを見てください。

この会場には何百人もの人々が座っていますね。

それぞれの人のうちにも超自然的な存在(霊)があり、  
それぞれの思いと信仰が、まるで霊的な引力のように引き合っています。

私はその中で、いまあなたの人生——あなたの霊——  
に触れようとしているのです。主イエスもそうされました。

主は人々の思いを見抜かれ、

彼らが心の中で何を考えているかをご存じでした。

そしてサマリアの井戸のほとりでひとりの女性に話しかけ、  
しばらくしてから、主は彼女に彼女の問題がどこにあるのかを  
明らかにされました。

そうですね？ 覚えていますか？

その出来事はヨハネの福音書第4章に書かれています。

サマリアの井戸の女の物語です。

読まれたことがありますね？

主は本当に素晴らしい方ですね。

あなたは、主が死からよみがえられたと信じていますか？

——そうですか。信じていますね。

そして、主イエスが今も人の間に生きておられると信じていますか？

——同じイエスが、今この夜もここにおられるのです。

もし同じイエスであるなら、

主はいまもあのときと同じようになさるでしょう。

その御霊がご自分の民の間に働いておられるのです。

そうですね？

——その通りです。

それでよいのです。

さて、私は今……。

36 説教のあとでこうして行うのは、なかなか大変なのです……。

ですが——さあ、どうか信じる人々は私と一緒に祈ってください。

……はい。

——いま、来ています。見えますか。

あなたは、少し怖かったのですね？

ほんの少し不安だった。

ええ、そうです。

少し神経が高ぶっていたのです。

——それが原因でした。

私は今、あなたが自分を抑えようとしているのが見えます。

でも、見てください。

あなたにはある症状がありますね。

それは内臓——胃の問題です。

そうでしょうか？

——その通りです。胃の不調です。

もうしばらくの間続いていますね。

それは、神経的な状態から来ています。

そのために胃が荒れ、

胸やけや痙攣を起こし、

口の中に酸っぱいものが上がってくる。

それは胃酸です。

つまり、胃の中に**酸性過多**があるのです。

それが原因で**胃潰瘍**のような状態になっています。

食べたものが上がってきて、

少し逆流のようなものが起きますね？

——そうです。

ちょうど今、主が言われた通りでしたね。

どうして私がそれを知ることができたでしょう？

私たちは見ず知らずなのに。

——それは、ただ神が啓示してくださったのです。

——その通りです。

37 もし、もう少しあなたと話を続けるなら、

おそらく主は、あなたについてさらに何かを示してくださるでしょう。

けれども、今夜はこの会場に、祈りを必要としている多くの人々がいます。

——しかし、今、あなたの心に何かが触れましたね。

そうです。

あなたには、ご主人もおられますね？

そしてその方も健康を損なっている。

——そうですね？ そうなら、手を上げてください。

はい。

その通りです。

ご主人は膀胱(ぼうこう)の病気を患っていますね？

——そうですか？ それが真実なら、もう一度手を上げてください。

……はい、確かにその通りです。

さて、あなたは今聞いているこれが、

神の御霊によるものだと信じますか？

信じますか？

そうです。

これは超自然的な源(みなもと)から来ているのです。

あなたもそれを感じているでしょう？

ただ、あなたがこれまで受けてきた教えとは少し違うので、

少し戸惑いを覚えているだけなのです。

——そうでしょう？

ええ、今あなたはそれを知っています。

ですから、偽ることはできません。

というのも、

あなたはいま——そして私も——

神ご自身の臨在の中にいるからです。

38 もうひとつ、あなたのご家庭に関して、私はある出来事を見ています。

——最近のことではありません。しかし、事故が起きましたね？

そうでしょう？息子さんのことです。

およそ二年前、彼は自動車にはねられたのではありませんか？

そしてその事故で、頭に損傷を受けました。

そのために、記憶やその他の面で不調を抱えている。

——そうですね？「はい、その通りです。」では、あなたは信じますか？

「はい、信じます。」——それなら、こちらにいらっしやい。

(ブラナム兄弟、祈りの声を上げる)

全能の神よ、命の創り主よ、この哀れな女性に

あわれみといのちをお与えください。

主よ、どうか彼女を癒してください。

そして彼女の家族の者たちも、同じように癒してください。

どうか今夜が、この一家にとって特別な夜となりますように。

ああ神よ、彼らの過去の痛みや悲しみをすべて取り去り、

彼らが光のうちを歩む者となりますように。

その光が彼らのもとに届くとき、

どうか彼らとその光を受け入れ、あなたの子どもたちとして呼ばれますように。

そしてあなたに仕え、あなたを愛し、完全に癒されますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

(静かに女性に向かって)

お母さん——今あなたが聞いたあの声は、確かに私の声でした。

けれども、語っていたのは私ではありません。

主が語られたのです。そして主があなたに語られたことは、

真実です。今、その言葉をそのまま信じて行きなさい。

そうすれば、あなたは癒されます。——神の祝福がありますように。

主があなたと共におられます。(小声で)

——この方を出口までご案内してあげてください。お願いします。

[テープ中断]

39 どうか、心のすべてをもって信じてください。

神はすべてのことをご存じです。

そして今は——どうか皆さんも、静かに、敬虔な心でこの時を迎えてください。

……さて。

こんばんは、ご主人。

私たちは——たぶん——初対面ですね？

そうでしょうか？

「はい、その通りです。」

私も、あなたにお会いするのは初めてです。

けれども、神は私たち二人を、

生まれたときからずっとご存じです。

「はい、そうです。」

神はこれまで、あなたにも私にも、

日々の糧を与えてくださいました。

そして私たちはこうして、

ここまで生きてきました。

——しかし、いつの日か、

私たちは皆、神の御前に立たなければなりません。

この地上で行ったすべての行いについて、

報告をする時がやって来ます。

ですから、私たちは本当に敬虔な者であるべきなのです。

そう思いませんか？

「はい。」

さて、ご主人、

あなたが今夜ここに来られたのは——

ご自身のためではありません。

あなたはある**目的(ミッション)**のためにここにおられる。

それは、愛する方のためですね。

そして、私が感じるところでは、

その方は——あなたの奥さまですね。

「はい、その通りです。」

——奥さまは、大きな手術を何度も受けておられる。

そして今、生死の境にありますね？

「はい、そうです。」

それは真実ですね？

「はい。」

では……あなたのポケットにハンカチをお持ちですか？

「はい、持っています。」

では、そのハンカチを、少しの間、私に渡してください。

40 全能の神よ、イスラエルの民があの時、紅海を前にして

行き詰まったときのことを思い起こします。前には海、両側には山々、

そして後ろからはパロの軍勢が迫っていました。

しかしあなたは、火の柱の中から怒りのまなざしをもって見下ろされた。

——詩人の言葉を借りれば、

そのとき紅海は恐れて退いたのです。なぜなら

イスラエルは約束の地へ帰還する途上にあつたからです。

神よ、今夜——この哀れな女性は、病の床に伏し、

死の瀬戸際にあります。彼女はできる限りのことをすべてしました。

医師たち——あなたのしもべたちも——できる限りのことを尽くしました。

周囲の者たちも、すべてをやり尽くしました。そして今、

あなたこそがエホバ・イルエ——「**主の備えたもう犠牲**」でられます。

主よ、この決定的な瞬間において、私は祈ります。

聖書に記されているように——使徒パウロの体か

手ぬぐいや前掛けが取られ、それが病人に触れたとき、

悪霊は出て行き、病人は癒されたと。

私たちはパウロではありませんが、しかし、同じ主イエスが

そのときと変わらず人々の信仰を尊ばれる方であることを、

私たちは知っています。

ですから主よ、

私は今、このハンカチをあつ瀕死の女性のもとへ送ります。

そして、彼女の命が保たれますようにと、

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

——疑ってはなりません。

誰にもこのハンカチに触れさせてはいけません。

それを、あなたの奥さまの下着の胸元、心臓の上に置きなさい。

そして、彼女のそばにひざまずき、祈りなさい。

あなたが知っている限りのすべてのことを神に告白し、

これからの人生を主のために生きると約束しなさい。

数日後、どうなったかを私たちに知らせてください。

——神の祝福があなたの上にありますように。

神があなたと共におられます。

行きなさい。疑わずに、ただすべてを信じなさい。

そうすれば、神は必ずその御業を成し遂げられます。

41 あなたはこれを信じますか？

——信仰を持ちなさい。

神は、ご自身が約束されたことを必ず成し遂げられます。

なぜなら、神は失敗されることのないお方だからです。

——神ご自身です。

さて、姉妹、少しだけあなたにお話ししたいと思います。

そして、この会場におられる皆さんにも申し上げます。

おそらく私は、あなたのことをまったく知りません。

私の知る限りでは、これまであなたにお会いしたことは一度もありません。

けれども、神はあなたを知っておられます。

そして、この女性が私にとって初対面の人であることを、

主はご存じです。

おそらく私は彼女にとっても見知らぬ存在でしょう。

もし彼女が以前どこかの集会にいたとしても、

私とは個人的な面識はないはずです。

——つまり、私たちはお互いをまったく知らないのです。

しかし、もし今このとき、

聖霊がこの女性の人生を明らかにされるなら、

そして、私が主のしもべとしてあなたがたの前に立ち、

それが実際に起こるならば——

それこそが、

死からよみがえられた主イエス・キリストの御霊が、

今夜ここに私たちのただ中におられるという証拠です。

そして神は、

ご自身の言葉どおりの御業を行われるでしょう。

それはすなわち、

「イエス・キリストは昨日も今日も、

そして永遠に同じ方である」

——この御言葉を、

神ご自身が今ここで証明されるということです。

42 さて——よく聞いてください。

このことに反発を感じる人がいるかもしれません。

しかし、それはあなたの教えが少しずれているだけかもしれません。

思い出してください。

当時のパリサイ人たちも、

自分たちは完全に正しいと思っていました。

彼らは聖く、名声ある、

信仰深い宗教家たちでした。

——しかし彼らはイエスを拒んだのです。

彼らは、

「神がこうであるべきだ」と自分の理屈で決めつけたのです。

けれども、

神はいつも知恵ある者や賢い者を混乱させ、

その思いを砕かれるお方です。

——さて、よく覚えてください。

もし今、ここで起こっていることが真実で、

そしてあなたが間違っているのだとしたら——

あなたは聖霊を冒瀆していることになります。

そうなれば、

あなたは永遠に滅びるのです。

今の世においても、来るべき世においても、

もはや憐れみはありません。

……ご主人、あなたには前立腺の病がありますね？

そして、そのあなたの隣に座っている奥さま——

彼女には直腸の病があります。

そうですね？ それは真実ですね？

「ハレルヤ！」

——今、私が話しているこの瞬間に、

あなたがたお二人とも癒されました。

あなたがたには祈りの札もありませんね。

けれども、それは必要ありません。

……そして、そのすぐ隣に座っている小柄な女性。

彼女もまた、長い間病を患っていました。

——腎臓の病です。

しかし、ただ神を信じなさい。

神は、あなたを完全に癒されるでしょう。

43 ——敬虔でありなさい。

祈りの心を持ちなさい。

さて、婦人よ。

少しの間、私の方を見てください。

——まっすぐこちらを見て。

私は、あなたの兄弟のようにして、

あなたに話をしたいのです。

私たちは、お互いにまったくの他人です。

けれども、主イエスはすべてをご存じです。

……そこに座っている小柄な婦人。

あなたには神経の病がありますね。

長い間、ひどく神経がすり減る状態が続いてきました。

そうですね？

——はい、主が今あなたを癒されました。

もう完全に良くなりました。

家に帰って元気でお過ごしなさい。

神の祝福がありますように。

主の憐れみがあなたにありますように。

——これが私の祈りです。

……さて、再び敬虔でありなさい。

——いいえ、あなたはこの町の方ではありませんね。

遠くから来られたのですね。

そうですね？

あなたはイリノイ州から来ました。

——およそ二百マイルの道のりを旅して来られましたね？

それは正しいですね？

そして、あなたは肺の病を患っています。

——そうですね？

さらに、私はあなたが

朝、ベッドから起き上がろうとしている姿を見ます。

あなたには関節炎の症状もありますね。

体がこわばり、動きづらい。

——それは本当ですか？

では、あなたは信じますか？

キリストがあなたを癒されることを。

——私を見てください。

私の言いたいことがわかりますね。

ペテロとヨハネが言ったように、

「わたしたちを見なさい。」

また、預言者エリヤが言ったように、

「もしヨシャパテ王の臨在を敬わなければ、

わたしはあなたを顧みもしなかったであろう。」

44 ——信じなさい。

あなたは、以前にも祈りの集会に出たことがありますね。

——けれども、それは私の集会ではありません。

その人は、やや体格のよい男性で、

短く茶色の髪をしていました。

顔には少し険しい表情を浮かべ、

話し方も鋭く、力強い口調の人でしたね。

——そうでしょうか？

もしそれが本当なら、手を挙げてください。

私はその光景を見ました。

——間違いありません。

神は嘘をつかれるお方ではありません。

……医者があなたにこう言いましたね。

「あなたにできることは、病院で長く休むことだけです。」

——あつ、待ってください。

私は広い草原が見えます。

彼はこうも言いましたね。

「もし行きたいなら、西へ行くこともできるでしょう。」

——そうですね？

「そのとおりです。」

——医者がそう言ったのですね？

「はい、言われたとおりにしました。」

——その通りです。まさに正確です。

そしてあなたには、小さな男の子がいますね？

——その子もまた肺の病を抱えていますね？

もしそれが真実なら、手を挙げてください。

「はい。」

——そうです。

……さあ、少しこちらへいらっしやい。

全能の神、命の与え主、

あらゆる良き賜物を与えてくださるお方よ。

どうかこの女性と、彼女の家族全体に、

あなたの祝福を注いでください。

今、彼女がここに立ち、

聖霊が彼女の内を流れておられるこのときに、

主よ、彼女を癒してください。

そして、家に帰るときには完全に回復していますように。

主のしもべとして、私は彼女の上に手を置き、

イエス・キリストの御名によって彼女を祝福します。

——サタンよ、

おまえがこの女性を縛り、

これまで多くの悪をなしてきたが、

今夜、我らはキリストの名において立つ。

すべてのクリスチャンの代表として、

イエス・キリストの御名によって命ずる。

この女性から出て行け。

二度と彼女を苦しめるな。

イエス・キリストの御名によって命ずる。

さあ、家に帰りなさい。

何も疑わないで。

必ず癒されます。

——神の祝福がありますように。

もし聖霊が、あなたに何が悪いかを示してくださるなら……。

——あなたには、今、何かが起きていることがわかりますね。

それが、主の御使い(エンジェル・オブ・ザ・ロード)です。

あなたは、あの光の写真を見たことがありますか？

——いま、まさにその御使いがあなたの上にとどまっています。

あなたの患いは背中ですね？——「はい、その通りです。」

では、行きなさい。あなたは癒されました。

主があなたを祝福されました。

神があなたと共におられ、あなたを祝福されますように。

——皆で言いましょう。「神に感謝します！」

信じますか？——「はい、信じます。」

心の底から信じますか？——「はい、心から信じます。」

……少し待ってください。(録音切れ)

——あちらの柵の向こう側にいる男性。あなたにも背中の痛みがありますね？

そうでしょうか？

——あなたも、さきほどあの男性が癒されたその瞬間に癒されました。

その霊が助けを呼んだのです。

神があなたを祝福されますように。

あなたは祈っていたでしょう？ そうですね？

——やはりそうでしたか。

私は見たのです。

背中に痛みを抱えた誰かが祈っている姿を。

そして、そのとき叫び声が上がりました。

振り返ってみると、そこにこの男性がいて、

その声が再び呼びかけるのを聞き、

さらにその上に光がとどまっているのを見たのです。

——ですから、それはまさしくあなただったのです。

46 ——あちらの側に座っている女性。——そう、そこの黒い髪の方です。

あなたは長いあいだ、神経の病に悩まされてきましたね。

そうでしょうか？——「はい。」そうです。

その神経の不調は、今、癒されました。

神があなたを健やかにされたのです。

そして、そのすぐ後ろに座っている小柄な女性。

あなたは婦人科系の病気を抱えていましたね。

——はい、あなたのことです。

その病も、先ほどの瞬間に癒されました。

姉妹、どうぞ立ち上がって手を挙げてください。

あなたは卵巣に膿瘍(のうよう)を持っていました。

——しかし、それは今、完全に去りました。あなたは癒されました。

さあ、家に帰ってください。

47 ——アーメン。

なぜ、あなたがたは神を疑うのですか？

そこの男性、

あなたはまた夕食を楽しみたいと思っているでしょう？

私を神の預言者(しもべ)と信じますか？

——「はい、信じます。」

それなら、

主イエス・キリストの御名によって命じます。

行って、夕食を食べなさい。朝食も食べなさい。

そして、あなたの癒しを証ししなさい。

あなたの胃の潰瘍は、今、完全に消えました。

神があなたを祝福されますように。

信じますか？

——疑ってはなりません。

さあ、婦人の方、こちらへ。

信じますか？

私を神のしもべと信じますか？

もし神が、今ここで、あなたに何の病があるかをすぐに示されるなら——

それでもあなたは信じますか？

(少し息を整えながら)

……こうした働きが続くと、私はとても力を消耗します。

ふらふらするほどに。

主も言われました——

「わたしの力(ヴァーチャー)が出て行った。」と。

あの女が主の衣の裾に触れた時のことです。

——今も同じように、

この会衆全体から力が引き出されているのです。

さて、あなたは心臓の病がありますね。

そうでしょう？

では今、信じてください。

あなたは癒されました。

さあ、出て行って証しをしなさい。

神があなたと共におられます。

あなた(別の男性)も、

同じ病を持っていましたね。

しかし、今や神はあなたにも同じことをされたのです。

——アーメン。

あなた(次の女性)は、

婦人病を患っていました。

ですが、もうそのまま歩いて行きなさい。

主イエスの御名によって癒されました。

48 ——皆さん、信じますか？

心のすべてをもって信じますか？

疑ってはなりません。

今こそ、信仰を持ちなさい。

神は必ず成し遂げられます。

もしあなたが心から信じ、少しも疑わないなら、

神はその信仰を実現させてくださるのです。

静まりなさい。神に信頼しなさい。

あちらの隅の方の方々——

あなたがたは信じていますか？

信じているなら、手を挙げて。

そのまましっかりと立ちなさい。

主は今夜、二度もその隅に目を向けられました。

さあ、婦人の方、こちらへ。

あなたはがんから癒されたいのですね？

——そうですね？

では、今、イエスをあなたの癒し主として受け入れますか？

——「そう願っています。」

姉妹よ、

「そう願う」では足りません。

あなたは、

“見るか、死ぬか”のどちらかです。

見るなら、生きる。

見なければ、死ぬ。

それは、あなた自身の選択です。

父よ、

この女性のために信仰を与えてください。

彼女が生きることができますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。

——神があなたと共におられます。

49 ——こんばんは、ご婦人。私を主のしもべと信じますか？

主ご自身が今ここにおられると信じますか？

そして、その御霊があなたを癒すために今ここにおられると信じますか？

あなたはこの町の人ではありませんね。

——よそから来られた方です。

あなたはトレドから来られましたね？

——そうですね？そして、あなたは伝道者ではありませんか？

ご主人も伝道者です。——そうですね。

(今、そこに座っておられる。)

私はあなたに会ったことは一度もありません。

しかし、あなたには心臓の病がありますね？

——その通りです。あなたは癒されました。

神があなたを祝福されますように。さあ、帰りなさい。

ご覧の通り、あなたと先ほどここを通ったご婦人の

心の態度の違いははっきりしています。

信仰が違うのです。

——行きなさい。

信仰を持ちなさい。

さあ、次の男性、来てください。

あなたは主を信じますか？全能の神よ、

この人を癒してください。彼を解き放ってください。

主イエス・キリストの御名によって、

そのようになりますように。

アーメン。——そうです、その調子です。

あなたは、席に座っていたときすでに癒されていました。

神があなたを祝福されますように。

そのように歩み続けなさい。

さて、次のあなた——

心臓の病を治したいのですね？

完全に癒されたいと願っているのですね？

それなら今、主を受け入れ、

神があなたを癒してくださいと信じなさい。

主イエスよ、

この婦人を癒してください。

彼女が今夜、家に帰るとき、

完全に癒されているようにしてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。

さあ、行きなさい。

見なさい、信じなさい、生きなさい。

心から信じるなら、

神は必ずそれを成し遂げてくださいます。

50 ——皆で言いましょう。

「神に感謝します！」

さあ、皆さん、静かにしてください。

……少し待ってください。

耳の聞こえない人がいます。

——ああ、この方です。

ここに立っているこの男性。

皆さん、頭を下げて祈りましょう。

全能の神よ、命の与え主、すべての良き賜物を与えるお方よ、

どうかこの男性の上にあなたの祝福を注いでください。

私はあなたに願います。

どうか、彼を癒してください。

聞こえない霊よ、

この人から出て行け。

主イエス・キリストの御名によって命じる。

神の前において命ずる——この人から離れよ。

(静寂ののち)

——聞こえますか、兄弟？

今、聞こえますか？

——はい、聞こえます。

あなたは完全に癒されました。

神があなたを祝福されますように。

さあ、頭を上げてください。

この男性は今、完全に聞こえるようになりました。

聞こえますか？

——「はい、聞こえます。」

「アーメン」と言ってください。

——「アーメン。」

「主を愛します」と言ってください。

——「主を愛します。」

「神に栄光あれ」と言ってください。

——「神に栄光あれ。」

——癒されました、兄弟。

あなたは最近、少し神経が過敏でしたね？

それに加えて、前立腺の問題にも悩まされていました。

——それが今、私にも“感じられました”。

しかし、それもあなたから去りました。

あなたは夜中に何度も起きてトイレに行っていましたね？

誰にも話していなかったことですが——そうですね？

——「はい、その通りです。」

それは本当のことですか？

——「本当です。」

よろしい。

あなたは今、完全に癒されました。

喜びながら、帰りなさい。

51 ——皆で言いましょう。

「神に感謝します!」

さあ、不信仰な人々に伝えなさい。

耳の聞こえなかった者が聞き、

目の見えなかった者が見、

足の不自由な者が立ち上がったことを。

そして、

「主イエス・キリストの福音につまずかない者は幸いである」と。

なぜなら、この福音は言葉だけでなく、

聖霊の力とその現れによって証明されたからである。

——(使徒パウロの言葉を引用しつつ)

さあ、男性の方、こちらへ。

あなたは心から信じていますか?

そして今、あなたが立っているのは、

この兄弟の前ではなく、神ご自身の御前であると信じますか?

——神の御前にいるのです。

もし私が神の預言者であるなら、

神はあなたに何が起きているのかを啓示してくださるでしょう。

——それを信じますか?

あなたには、時々発作のような症状がありますね。

——そうです、てんかんです。

そしてもう一つ、

あなたが今最も必要としているのは、

イエス・キリストをあなたの救い主として受け入れることです。

——そうですね?

今ここで、

主イエスをあなたの個人的な救い主として受け入れますか?

そして、

喫煙をやめ、

すべての悪習を離れ、

あなたの人生をキリストに捧げると決心しますか?

——それなら、

タバコをポケットから取り出して捨てなさい。

52 ——主を信じたいですか？

それでは、皆さん、しばらくの間立ち上がりましょう。

賛美の歌：

私は主をほめたたえる、

私は主をほめたたえる。

罪人のために屠られた

小羊をほめたたえる。

すべての民よ、主に栄光を帰せ。

その血がすべての汚れを洗い清める。

(繰り返し)

私は主をほめたたえる、

私は主をほめたたえる。

罪人のために屠られた

小羊をほめたたえる。

すべての民よ、主に栄光を帰せ。

その血がすべての汚れを洗い清める。

(会場全体が静まり、柔らかな拍手と涙の音が響く)

——皆さん、私たちはここにずっと立っていることもできます。

しかし、これ以上神が何をなさることがあるでしょうか？

神は今、すでにこの場所でご自身を現しておられます。

もし今、あなたが信じないなら、

いつ信じるというのでしょうか？

もう、これ以上のしるしはありません。

今まで私は真理を語ってきました。

そして、神ご自身がその真理を確証してくださったのです。

だから、今こそ信じてください。

私はあなたに真実を語っています。

さあ、今、互いに手を置き合ってください。

これから、皆さん全員で祈ります。

私が祈りの言葉を申し上げますので、

どうかそのまま繰り返してください。

(静かに)

今から語る言葉は、  
サタンを打ち負かすために神が与えてくださる言葉です。  
では、頭を垂れてください。  
私が言うとおりに心で祈り、口で繰り返してください。  
(※ここで会衆全体が、  
ブラナム兄弟の導く言葉をひとつひとつ繰り返して祈り始める)

- 53 全能の神よ、  
命の与え主、あらゆる良き賜物をくださるお方よ。  
どうか、あなたのしもべたちの上に祝福を注いでください。  
主よ、私は今、あなたを必要としています。  
あなたは、私のすべての必要を知っておられます。  
私はこれまで見てきたすべてのことを、  
あなたの御言葉として信じます。  
そして今、私はイエス・キリストを、すべてにおいて  
十分な私の救い主として受け入れます。  
主イエスよ、どうか私を憐れんでください。  
私はここを去るとき、  
神の栄光を証しする者として歩みます。  
主よ、どうか私を助けてください。  
アーメン。  
(ブラナム兄弟の声が穏やかに続く)  
——さあ、皆さん、頭を垂れたままで、  
今の祈りを心の中にしっかりと留めてください。  
今こそ、神との間に戸を閉じなさい。  
この瞬間、あなたと神だけの交わりに入りなさい。  
もしあなたが罪人であるなら、今ここで主を受け入れなさい。  
もしあなたが聖霊を求める者なら、心を整えて受け取る準備をしなさい。  
もしあなたが病を抱えているなら、  
今、癒しを受け入れなさい。  
今から私はあなたのために祈ります。  
そして——もし神がこの壇上で私の祈りを聞き入れ、  
悪霊を追い出し、病と罪を暴かれたのであれば、  
同じ神が、この会場にいるすべての人々の中から

あらゆる悪霊を今この瞬間に追い出すことができるのです。

54 ——父よ、

今、あなたはこの人々をご覧になっています。

彼らは今ここに、一つ心に、一つ所に集っています。

そして今、聖霊——すなわち神の御使い——が

琥珀色の光のように、この会衆全体の上を動いておられます。

主よ、憐れみをお与えください。

あなたは彼らの告白をすでにお聞きになりました。

あなたは御言葉の中でこう言われました——

「もしあなたが口で告白するなら……」

主よ、私は今、この人々のために憐れみを祈ります。

ここにいる多くの者たちは、

病や束縛の中にあります。

しかし、今ここに神ご自身がおられます。

人々を解放し、

御真理を下し、御力を示し、

そして御子の復活の現実を明らかにされるために。

神よ、

もし私があなたの御前に恵みを得ているのであれば、

どうか今夜、この人々の前でも恵みを得させてください。

今、私は敵を挑むために進み出ます。

この場所を取り巻き、人々の癒しを妨げようとしている

疑いの霊よ、

私は今、お前に命じる。

悪霊よ!

神の御子イエス・キリストの名によって、命じる。

主の預言者として、汝に命ず——出て行け!

この人々から離れよ!

私はお前に命ず——今この場から立ち去れ!



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

説教の語り手

## ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7